

家庭教育力の強化を図る

持続可能なPTA活動を目指して

愛西市立勝幡小学校PTA

1 はじめに

本校は、愛知県の西部、愛西市に位置しており、織田信長生誕の地としても知られた地域にある。

1873年（明治6年）に勉心学校として開校し、愛西市でも歴史ある小学校の一つである。地域と強くつながり、地域に愛され、地域と共に歩む学校でもある。

現在は、児童205名、12学級

（うち特別支援学級4学級）の小規模校となっている。

本校の教育目標『いのちを尊び、向上心をもって前向きに努力する、心身ともに健全な児童の育成を目指す』のもと、「やさしい子 たくましい子 よく考える子」をスローガンに家庭や地域と連携し教育活動を進めている。



【運動場から見た校舎】

2 研究への取組

(1) PTA組織と活動内容

本校のPTA組織は、会長、副会長2名、家庭教育委員、書記、会計の6名の役員と、1年生を除く各学年2名の学年理事の10名とで構成されている。年間を通した活動は、地域ボランティアによる登下校の児童を見守る「見守り隊」（スクールガード）を全面的に支援し、地域、学校と共に子どもたちの安全を守る活動を積極的に行っている。

委員会活動は、教養、広報、保健の3つの委員会から組織されており、教養委員会は、年1回程度の研修や技能講習会などの企画、広報委員会は、年1回PTA活動を紹介する「勝幡PTAだより」の作成、保健委員会は、年2回標準服バザーを開催している。

(2) 研究のねらい

近年の急激な社会変化に伴い、共働き世帯の増加、またPTA活動のとらえ方が変化し、PTAに未加入の保護者も増加している。そこで本研究を通して、PTAへの理解促進と保護者の負担感を減らし、今まで以上に家庭・地域・学校が連携し、家庭教育力を強化できるよう、持続可能なPTA活動とは何か、以下の3点に絞って実践することとした。

- ・ PTA組織の見直し
- ・ 年間のPTA活動内容の見直し
- ・ PTA入会時の見直し

3 実践活動の概要

(1) P T A組織の見直し

	令和4年度まで	令和5年度から
役員数	本役員6名 学年理事7名 字理事10名	本役員6名 学年理事10名
1年学年理事決め	入学式後	無
委員会	教養委員会 生活委員会 広報委員会 保健委員会	教養委員会 広報委員会 保健委員会

本校には、令和4年度までは、学年理事の他に、各地域に字理事がいた。しかし、通常の委員会活動の他に、字理事には交通事故0の日に実施される、朝の交通旗当番決めの役割があり、「P T Aの未加入者は朝の交通旗当番に参加しなくてもいいのか」という声が聞かれた。

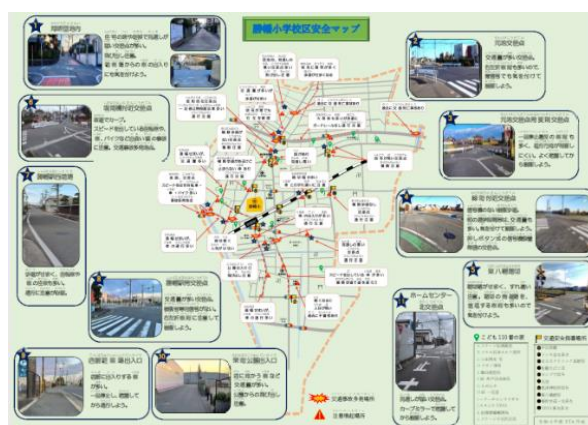
そこで、令和5年度からは、字理事をなくし、P T A活動とは切り離して、「通学団での登下校を選択している保護者」の中から、地域で代表者のみを年度初めに決め、交通旗当番を作成してもらうようにした。

そうすることで、交通旗当番は、P T Aに加入、未加入ではなく、通学団登下校を選択している保護者の活動として、不公平感なく行えるようになった。また、各地域の代表者はP T Aの委員会活動に参加する負担が減った。そして何より大きな変化は、各家庭で、改めて「登下校は保護者の責任の下で行われるもの」ということが再認識され、P T A活動ではなく、通学団懇談会で保護者同士のつながりが深まったり、P T Aが支援する地域の見守り隊（スクールガード）への感謝の気持ちがより一層大きくなったりした。

(2) 年間のP T A活動内容の見直し

① 交通安全マップ

令和4年度までは、生活委員会が存在したが、コロナ禍で活動内容がなかなか充実せず、他の委員会との負担の差が大きかったため、思い切ってなくした。しかし、字理事がなくなり、児童の登下校の安全管理は、P T Aから切り離されるため、令和4年度の生活委員を中心に、全役員で



【勝幡小学区交通安全マップ】

「勝幡校区交通安全マップ」を作成して全家庭に配布し、ホームページにも掲載した。更にこの安全マップを活用して、通学団会議では児童と教師が、引き渡し訓練では児童と保護者が、校区の危険箇所の再確認を行った。今後は、年に一度全役員でマップの訂正箇所がないか、見直しを行う予定でいる。

② 広報誌づくり

広報委員会では、年1回発行の広報誌のページ削減を行った。各学年の行事写真のページ（3ページ分）は、ホームページで見ることができるためなくし、PTA活動の報告ページを1ページから、2ページに増やすこととした。

そうすることで、PTA会員だけでなく、未加入者にもPTA活動をより知ってもらい、理解してもらうための広報誌へと特化させた。



【PTA活動報告のページ】

また、編集ページを減らしたことで、広報委員の負担も減った。

③ 標準服バザー

保健委員会では、児童が着用する標準服や体操服のリサイクルバザーを年2回運営している。この活動は、準備、運営に人手も手間もかかるが、収益金が活動費に生かされるため、勝幡小PTAにとっては大切にしたい活動の一つでもある。

そこで、標準服バザーの収益金は、他のPTA活動費には加えず、役員で話し合っって購入するものを決めることとした。役員にアンケートを取るなどしてアイデアを募り、その結果昨年度は「ちょっと早めのクリスマスプレゼント」と称して、12月の給食時に全児童にセレクトデザートを送った。



【デザート配付の様子】

また、デザート配付の際には、役員がサンタやトナカイの衣装を身に付け、各教室に届けに行くことで、子どもたちが喜び、笑顔で食べる顔も直接見てもらうこともできた。役員からは、「PTA活動が目に見えて分かり、子どもたちのためになっていることがうれしい」、「PTAに加入、未加入を気にせず、バザーの収益金が純粋に子どもたちのために還元できて、やりがいがある」という声が聞かれた。

④ 行事ごとのボランティア募集

昨年度3年ぶりの水泳指導が行われるにあたって、プール清掃が問題になった。児童数の減少と教師の負担感を考えてのことだった。

そこで、学校行事の中で、P T Aが学校に協力できることを役員だけで行うのではなく、全保護者に向けてP T Aから広く募集することを試みた。

初めてのことで、どれだけの参加があるか心配したが、子どもたちと一緒に活動できるということもあり、授業参観を兼ねて参加希望する保護者もおり、やらされた感のない楽しい活動

になった。また、子どもたち自身も、活躍の場を見てもらえるだけでなく、活躍する親の姿を誇らしげに感じる様子も見られた。今年度は、更に参加人数も増え、保護者からも好評の行事となった。



【プール清掃の様子】

(3) P T A入会時の見直し

愛西市では、令和4年度からP T A入会の同意書をとっているが、未加入を選択する保護者が何人かいる。しかも、例年は1年生の学年理事を入学式の日に決めており、保護者の中には初めての就学で、P T A活動自体をあまり理解できていない上に、学年理事も決めていたため、不安の声が多く聞かれ、その結果P T Aへの未加入者も増えてしまうことにもなっていた。

そこで、令和5年度からは、1年保護者の中からは学年理事を選出せず、一年間は一般会員としてP T A活動をじっくり見てもらい、2年生から理事をやってもらうこととした。その分、入学式後の理事決めの時間は、昨年度のP T A広報誌を配付し、本校のP T Aの活動について説明する場とした。実際P T Aについて、趣旨の説明を聞き、広報誌を見て、P T Aに再加入した保護者もいた。

保護者の思いに耳を傾けながら丁寧な広報活動を行うことで、P T Aに対する不安や不透明な部分が減り、十分理解した上で、子どもたちのために楽しんで活動に参加してもらえることにつながった。

4 おわりに

ここ数年の間に、学校現場の多忙化がクローズアップされ、教師の負担軽減も叫ばれる中、保護者のP T Aに対する捉え方も多様化している。今まで通りのP T A活動では、教師だけでなく保護者にとっても持続可能な活動とはならない。

今回の実践を通して、組織、活動内容、入会の見直しを図ったことで、活動はスリムになったが、P T Aへの意識改革や、家庭での会話につながる機会は多くなったと考える。今後もP T Aと学校が協力し合って、誰もが取り組める持続可能な活動を行う中で、家庭教育力の強化を図っていきたい。